

平成22年3月24日
東北地方整備局

入札監視委員会の審議概要について (第一部会第4回定例会議)

東北地方整備局入札監視委員会の第一部会第4回定例会議は、2月22日(月)に仙台市の東北地方整備局で開催されましたので、その審議概要(別紙)についてお知らせします。

なお、議事では、委員会が抽出した案件11件の審議が行われ、意見の具申又は勧告事項はありませんでした。

〈発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会〉

問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局

(第一部会) 仙台市青葉区二日町9番15号

TEL (022) 225-2171 (代表)

主任監査官
入札契約監査官
契約管理官
技術開発調整官

はたけやま	もり	お	(内線2114)
畠山	盛雄	雄	
まる	やま	さかえ	(内線2220)
丸山	栄	栄	
くま	が	い	(内線2222)
熊谷	伊佐男	伊佐男	
こ	せき	けん	(内線3120)
小関	賢	賢	
	次	次	

東北地方整備局 入札監視委員会（第一部会） 審議概要

開催日及び場所	平成22年2月22日（月） 東北地方整備局 大会議室		
委員	部会長 佐藤 英世（東北学院大学法科大学院教授） 部会長代理 宮原 育子（宮城大学事業構想学部事業計画学科教授） ○委員 京谷 孝史（東北大学大学院工学研究科土木工学専攻教授） 委員 熊谷 真宏（公認会計士・税理士） ○：欠席		
審議対象期間	平成21年10月 1日 ～ 平成21年12月31日		
総審議案件	総件数 11件	（備考） ○入札結果及び工事・建設コンサルタント業務等の発注件数、指名停止件数・談合情報等の報告並びに低入札価格調査対象工事の件数等の報告を行った。	
工 事	審議案件		6件
	一般競争（WTO対象）		1件
	一般競争（WTO対象外）		2件
	工事希望型競争		0件
	通常指名競争（一般土木）		1件
	通常指名競争（その他）		1件
	随意契約		1件
建設コンサルタント業務等	3件		
役務の提供等及び物品の製造等	2件		
委員からの意見・質問、それに対する回答等	別添のとおり		
委員会による意見の具申又は勧告の内容	別紙のとおり		

抽出案件 工事 概要書

	工事名	入札・契約方式	工事場所	上段：契約金額 (単位：千円) 下段：入札経緯	応募 業者数	参加 (指名) 業者数
1	成瀬ダム転流工（上段トンネル）工事	一般競争方式 (WTO対象)	秋田県雄勝郡東成瀬村椿川地内	1,223,250 1回落札	13社	13社
2	最上川上流小田島排水樋門機械設備工事	一般競争方式 (WTO対象外)	山形県東根市野田地内	236,250 2回落札	1社	1社
3	五百川堤防整備工事	一般競争方式 (WTO対象外)	福島県本宮市仁井田地内	55,650 2回落札	1社	1社
4	山上地区道路改良工事	指名競争方式	福島県相馬市山上字小田原地内	61,635 1回落札	—	10社
5	能代管内気象観測設備設置工事	指名競争方式	秋田県山本郡三種町鯉川～大館市長走地内	115,500 1回落札	—	10社
6	日本海沿岸東北自動車道大茂内第二トンネル（2期）工事	随意契約方式	秋田県大館市商人留～雪沢地内	1,275,750 —	—	1社

抽出案件 建設コンサルタント等 概要書

	業務名	入札・契約方式	履行場所	上段：契約金額 (単位：千円) 下段：入札経緯	応募 業者数	参加 (指名) 業者数
7	長井ダム試験湛水技術支援業務	一般競争方式	山形県長井市平野・寺泉地内	33,600 2回落札	1社	1社
8	流域内資産等現況分析業務	簡易公募型プロポーザル方式	東北地方整備局	35,175 —	1社	1社
9	象潟金浦道路景観検討業務	標準プロポーザル方式	秋田河川国道事務所	21,000 —	—	1社

抽出案件 役務の提供等・物品の製造等 概要書

	業務名	入札・契約方式	履行場所	上段：契約金額 (単位：千円) 下段：入札経緯	応募 業者数	参加 (指名) 業者数
10	入札説明書等ダウンロードシステム改良業務	一般競争方式	東北地方整備局	14,700 1回落札	1社	1社
11	除排雪情報提供システム維持管理運営業務	随意契約方式	青森河川国道事務所管内	1,732 —	—	1社

別紙

	質 問 等	回 答
	<p>[指名停止関係]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低入札調査の対象として、調査資料の提出を求めても応じなかったとのことだが、結局資料の提出は無かったのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の提出等がなかったので、指名停止とした。
	<p>[談合情報等の対応状況]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・技術評価値が外部に漏れないという保証はあるのか。 ・企業にとって指名停止は厳しい処分だが、基準はあるのか。公表はされているのか。 ・談合情報・疑義は、外部又は内部のどちらから出てきている割合が多いのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・技術評価は職員が評価し、すべて内部で処理しており、また、事業者名を隠すなど外部に漏れないよう工夫している。 ・「工事請負契約に係る指名停止等の措置要領」の別表で、標準的な指名停止期間が定められている。 ・「談合情報」は外部からの情報を、「談合疑義」は職員が疑義を持ったものを指している。今回、外部からの談合情報はなかった。 ・一定の基準に該当した場合は、談合疑義として全件報告させ、本局でチェックしている。
	<p>[再度入札における一位不動状況]</p> <p>特になし</p>	
	<p>[低入札価格調査制度調査対象工事]</p> <p>特になし</p>	
<p>1</p>	<p>[抽出事案についての審議]</p> <p>一般競争方式（WTO対象）</p> <p>[成瀬ダム転流工（上段トンネル）工事]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発注済みの下段トンネルは、今回の上段トンネルの受注者と同じ業者か。 ・加算点がゼロになっている理由は何か。 ・落札金額は予定価格より若干低いが、工事の質や内容は確保できるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両者は異なる業者である。 ・本工事は施工体制確認型総合評価方式を採用しており、調査基準価格を下回った業者に施工体制確認ヒアリングと追加資料の審査を実施した。審査の結果、施工体制の確保が十分でないと判断し0点の評価とした。 ・落札金額は調査基準価格を上回っており、請負者は、昨年度の下段トンネルの落札率等を参考にしたと思われる。

	質 問 等	回 答
2	<p>一般競争方式（WTO対象外） 〔最上川上流小田島排水樋門機械設備工事〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 者の応札だが、この工事は特殊な技術を要するのか。 ・ 工期について、通常の工事より短いなどの特徴はあるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特殊な技術は必要ない。 1 者応札となったのは、現場条件である作業ヤードや短期間での施工など工事内容を考慮した結果と思われる。 ・ 緊急経済対策事業であり、地元の要望を踏まえ出水期までの完成予定のため、工期的にはきついと思う。
3	<p>一般競争方式（WTO対象外） 〔五百川堤防整備工事〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域要件を付けている理由は何か。 ・ 正常な入札は5者なり10者が参加して行われるイメージがあるが、入札参加者が1者ということはどう考えるか。 ・ 工事公告はどのような方法で行われているのか。庁舎への張り出しや新聞掲載を行うのか。 ・ それでも入札者は集まらないのか。 インターネットで、業者が役所のホームページを直接見るのは、なかなか難しいと思うが、入札者が集まるように工夫しなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域要件は、地域の雇用を確保する施策の一貫として設定している。 ・ 技術資料の提出が可能な対象業者数は37者。 ・ Dクラスの工事は発注件数が非常に少なく、発注公告を見ているのか懸念している。公募という形よりも指名競争方式の方が、競争性が高まる場合もあるようにも思われる。 ・ このような状況が続くのであれば、Dクラスではなく、Cクラスの工事とすることも検討の必要があると考ええる。 ・ 発注公告は、パソコンで発注事務所のホームページやP P I（入札情報サービス）から見られる。さらに、専門紙にも掲載されている。 ・ Dクラスは仕事量が減ってきており、情報が届かない可能性がある。多くの方に参加できるようにする必要がある。

	質 問 等	回 答
4	<p>指名競争方式 [山上地区道路改良工事]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 辞退者が多いが、辞退の理由は何か。 ・ 応札者全員が予定価格を下回っていても、談合疑義はないと言い切れないのではないか。 ・ 談合疑義の基準は、恒常化すればそれが漏れることも考えられるので、定期的に検討していかなければならないと考えるが、如何か。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上半期の前倒し発注後という発注時期や、技術者配置の困難さがあったものと想像している。 ・ 談合疑義にはさまざまな形態があるだろうが、昨年度の第4回定例会議で審議いただいた「談合疑義事実の選定基準」に基づき、該当したものを疑義案件としている。 ・ その通りだと思う。選定基準については、事例の積み重ねを踏まえ、継続的に検討していく。
5	<p>指名競争方式 [能代管内気象観測設備設置工事]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 技術的な面を評価し予算を上積みすとか、予定価格をはじめ条件設定自体を見直し、応札しやすくすることが必要と考えるが、どうか。 ・ この設備の機器は、製作できるメーカーは限られているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 入札不調の場合、工期や設計を変更をするなど、発注者として出来ることを柔軟に対応する必要がある。今後はその方向で進める。 ・ 観測機器は特定のメーカー仕様とはなっていない。
6	<p>随意契約方式 [日本海沿岸東北自動車道大茂内第二トンネル(2期)工事]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地質的にも困難な工事ではあるが、1キロ弱を別途発注した考え方は如何か。 ・ 「後工事」とは、本工事の中でどのような位置づけになっているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国庫債務負担行為による工事は5ヶ年以内だが、本工事は6ヶ年に亘る工事であり、1つの工事として完結出来ないためである。 ・ 前工事の公告時に工事全体の内容を示しており、後工事については随意契約を行うことを明示している。

	質 問 等	回 答
7	<p>一般競争方式 [長井ダム試験湛水技術支援業務]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 1 者応募で落札率は97.7%だが、このような経過をどのように考えるか。 ・ この業務はむしろ整備局が、本来的に行うべき業務ではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 当該業務は、ダム管理業務の補助業務であり、職種や人員、業務拠点等の特殊性から、応募者が少なかったものと推測している。 ・ 管理者としての判断を伴わない補助的な業務は、民間発注している。
8	<p>簡易公募型プロポーザル方式 [流域内資産等現況分析業務]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 当該法人のOB役員数は。 ・ この業務は民間コンサルタントで対応できるのではないか。 ・ 東北6県の直轄12水系を一気に全部やるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページによれば4名。 ・ 業務実績については、国だけでなく都道府県、政令市等の実績を認めるなどしており、技術資料の提出可能業者は21者あった。 ・ 業務対象地域が東北管内エリアと広いことや、半年間で実施することが、民間の中に毛嫌いがあったのではないかと推測している。 ・ 12水系をまとめて実施する。
9	<p>標準プロポーザル方式 [象潟金浦道路景観検討業務]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的にどのような手法で検討するのか。 ・ 落札率は99.5%はやむを得ないのか。 ・ 効率性を考えた場合に、景観検討も工事に入れて、なるべく無駄のない形で発注されるべきではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有識者・地元代表等で構成する景観検討委員会を組織しており、検討結果を反映させる予定である。 ・ 標準プロポーザル方式であり、技術提案要請書におおよその委託金額が明示されていたためと思われる。 ・ 特殊な構造物、特に橋の場合にはデザインビルド方式もあるが、検討期間を要することもあり、土工部で実施しているところはない。 ・ 地元の説明し、地元が了解してはじめて工事に着手するが、現在のところ、景観検討は橋梁などに限られているのが現状である。

	質 問 等	回 答
10	<p>一般競争入札方式 [入札説明書等ダウンロードシステム改良業務]</p> <p>・最初にこの法人がシステムを作ったのは、入札の結果だったのか。</p> <p>・いつも法人が出てきて、99.6%で落札ということ自体がどうかという気がするが。</p>	<p>・電子入札システムの著作権は当該法人に、ダウンロードシステムの著作権は国土交通省にあったため、昨年は電子入札システム改良とは分離し、ダウンロードシステム単独の企画競争方式で発注した。</p> <p>・今年度は出来るだけ門戸を広げようと企画を求めず、金額だけの一般競争方式で行ったが、このような結果になった。</p> <p>・システム改良等については、後に障害が生じたときのトラブルが想定されるなかで、競争という形で対応せざるを得ない状況である。</p>
11	<p>企画競争方式 [除排雪情報提供システム維持管理運營業務]</p> <p>・本システムは、地域に役立つ取組みだが、契約額に関連して、地方公共団体も費用負担しているのか。</p> <p>・一般論として、NPOとの契約にあたっては、財務状況に留意すべき。</p>	<p>・システムの保守管理については、国、県、市が三分の一ずつ負担している。</p>

総 評	<p>本日の審議結果について、意見の具申又は報告事項はない。 審議を通じての所感は次のとおり。</p> <p>・コンサルタント業務や役務が目立ったが、競争性が確保されていないのが多すぎるのではないか。</p> <p>民間に移行する措置として、受注した後に研修を受けさせる方策を考えているようだが、入札にとって最も重要な、公平・透明で競争性を確保するための方策を、より迅速に検討していただきたい。</p>	<p>・公平・透明で競争性を確保するための方策を考えている。試行錯誤が続く部分もあるが、今後ともご指導をいただきたい。</p>
--------	---	---